

令和 4 年度 獨協埼玉高等学校 自己評価シート

目指す学校像	多様かつハイレベルな進路目標をめざす集団作りと併せ、豊かな環境のもと、自ら考え、判断し行動できる若者を育てる。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 能動的学習をなおいっそう取り入れ、自ら考え判断できる若者を育てる。 多様な進路目標の実現に向けて努力する。 登下校時の安全とマナーの向上を図る。 学校生活の安全性と快適性を向上させるため、安心・安全な学校作りを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月31日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> 自ら考え判断し行動できる若者を育てるために、積極的に学ぶ姿勢を促し、自ら考え・表現する活動の機会の保障を十分に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の質の向上をはかり、生徒の興味・関心を育む。 能動的・主体的に学び表現する態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の改善を目指して授業アンケートを実施する。 発表の機会を積極的に取り入れる。 獨協コースの活動を学校内外に効果的に広報する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを実施したか。 能動的学習につながるような授業実践および題材の効果的な配信を引き続き探求したか。 発表の機会を積極的に取り入れたか。 獨協コースの広報活動を積極的に行ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを3学期に実施し、授業の改善に向けて活用した。 探求的な活動実践が増え、生徒が主体的に学んだり、発表を行ったりする授業展開が増えている。 獨協コース卒業論文集を学校内外に配布、3学期に論文発表会を校内で実施した。 	B A B	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートだけではなく、教員同士の授業見学等を積極的に実施することで、授業をさらに改善していくための工夫をする必要がある。 探求的な活動実践を教員間で共有することで、主体的に学び表現する授業展開をさらに増やしていく。また、コロナ禍で中止していた体験型プログラムを再開し、生徒が主体的に学ぶ環境づくりを進めていく。 獨協コースでの学びを、学校内外に広報するために、HP等もさらに活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で導入されたChroombookが、教科ごとのアンケート、テーマを決めての課題、今後の予定や連絡など、能動的な学習につながっていくことに期待ができる。さらに生徒が主体的に取り組む環境作りを進めてほしい。 獨協コースのような論文指導は、大学の授業につながる取り組みであるから、どのような進路に進む生徒にとっても有益であるから、獨協コース以外の生徒たちにも体験させたい。また多くの生徒が、獨協コースのような指導を受けてみたいと思う雰囲気作りをお願いしたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> より質の高い学習と自発的かつ継続的学習を促す授業展開及び環境整備を推し進める必要がある。 生徒の進学要求に応える必要がある。 教員の上級学校情報の共有化を目指す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自発的な学習を促す。かつ継続的学習につながる指導と工夫を行う。 学習習慣の更なる確立を目指す。 英語4技能向上への充実を図る。 講習等の充実を図る。 ICTを活用した教育実践を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自習室の活用機会の保証を図る。 学習者主体の能動的学習を適切に授業に取り入れる工夫をする。 ICT機器を積極的に活用し、主体的・協働的な学びの場や探究活動につながる深い学び等の指導と工夫を行う。 難関大学の入試に対応した授業や講習を積極的に行う。 他大学入試情報等情報共有の場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自習室を積極的に開放したか。自習スペースを拡大充実させたか。 ICTを積極的に活用したか。 主体的・協働的学びにつながる工夫と環境整備に対処したか。 難関大学の入試に対応した授業や講習および発展的学習の機会の提供を行ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自習室を3年生、放課後の自習スペースを他学年が活用し、試験前を中心に、下校時刻まで学習している生徒が増えた。 入学後すぐにChromebookを所持できるようにしたことでICTを活用した活動が、積極的に行われた。 1年生を対象に併設校である獨協大学説明会を行い、大学進学に対する意識が高まった。 難関上位大学と中堅大学等のグレード別対策講習を実施した。 	A A A B	<ul style="list-style-type: none"> 自習室を積極的に活用している生徒が多いため、自習スペースに確保に努める必要がある。 ICTの活用については研修や実践例の紹介を行い、全教員が活用できる体制を整えていく必要がある。 担任のみならず教科担当教員との面談等を通して、進学に対する意識をさらに向上させていく必要がある。 大学入試を見据えた教科における学習指導とともに、多様化する入試に対応できるように情報共有の場を積極的に設ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任だけでなく教科担当など複数の先生方が、生徒を見守ってくださり、全体的に良い印象があります。 大学入試を見据えた場合、勉強して実力をつけることももちろんですが、多様化する入試の情報収集が不可欠なため、生徒自身がそのことに気づけるような早期の指導をお願いしたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の安全とマナーの向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の安全とマナーの向上を図る。 他者に配慮した行動がとれるよう、道徳心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> バスの乗車指導を継続する。 試験期間中の通学路での下校指導を継続する。 バスや電車内等、公共の場でのマナー向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗車指導、学校周辺での登下校指導を継続したか。試験中の通学路での下校指導を継続したか。 バスや電車内のマナーにかかわる苦情はなくなったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材を活用し、登校時のバス乗車指導を行った。 通学路での下校指導も、試験期間中を中心に継続した。 バスや電車内のマナーについては、苦情は減少傾向にあるが、継続して指導を行う状況にある。 	B A B	<ul style="list-style-type: none"> 通学時のマナーについて、担任・学年を中心に継続的な指導に努める必要がある。 通学路での下校指導も、継続して行う必要がある。 登下校だけではなく、公共の場でのマナーについて考えたことを実践させていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生は成人に達する大人として、公共の場での他者への配慮ができるよう指導をお願いしたい。 マナーについて苦情が寄せられていること自体を知らない保護者も多いでしょうから、知らせて家庭の協力を得ることも検討してほしいかがか
4	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安全に生活できるような環境作りを継続して推進する必要がある。 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を図ることが求められる。 三密を避けた学校生活の徹底が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大地震に備えた態勢づくりを図る。 AED講習を行う。 携帯マナー教室を行う。 不審者侵入対応マニュアルを整備する。 休日の校内活動における来校者の把握に努める。 安心して学校生活が送れるよう、感染防止対策等を十分に行う。 学事課の方針に則った授業・課外活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震発生に備え、食糧備蓄を維持する。また、避難訓練を実施する。 AED講習会を開催する。 携帯マナー教室を実施し、SNSなどの安心・安全な利用法を理解させる。 不審者侵入に備えた態勢を確立する。 マスクの着用、手指消毒の徹底を促す。 三密を避ける等感染防止を徹底した授業の工夫を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 3日分の食料・飲料水の備蓄を維持したか。 避難訓練を実施したか。 AED講習会を開催したか。 新入生を対象に携帯マナー教室を実施したか。 不審者対応マニュアルを周知したか。 休日の来校者把握に努めたか。 マスク着用・手指消毒の徹底・日々の検温等の健康観察は徹底できたか。 換気・三密の回避等感染防止対策がなされた授業展開を行ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 備蓄を継続するとともに、備蓄品の入れ替えも行った。 コロナの影響により、全校での避難訓練は実施できなかったが、防災意識の向上に努めた。 10月に2年対象のAED講習会を実施した。また、全教員対象に講習会を実施した。 新入生オリエンテーションとして、携帯マナー教室を実施した。 不審者対応マニュアルに基づき、来校者を把握した。 基本的な感染防止対策を継続して実施した。 	A B A A A A	<ul style="list-style-type: none"> 備蓄を継続するとともに、全校での避難訓練を実施し、防災意識を高めるとともに、学校外での行動についても防災意識を高める必要がある。 携帯マナー教室を実施するとともに、情報モラル教育を継続して行う必要がある。また、保護者に対しても理解を求める働きかけを積極的に行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時における備蓄は継続で、お願いいたします。 不審者対応マニュアル、AED講習会、携帯マナー教室の実施は、毎年継続でお願いしたい。特にSNSトラブルは、日々変化していることもあり、未然の防止や対処法の共有が必要である。 災害、感染症、不審者などの緊急時に備える指導は、時節にあったもので効果的に行ってほしい。

